

令和5年度に実施した主な事業

地域内経済循環促進事業

(買って応援ふじいでら事業)

1億3,187万円

物価高騰が進む中、市民の生活を支援するとともに、消費活動を市内消費へ振り向け、地域内経済循環の促進を図りました。

本庁舎施設改修事業

2,485 万円

森林環境譲与税を一部活用し、明るくぬくもりが感じられる空間となるよう、1階トップライトの木質化をおこないました。



運動・スポーツ習慣化促進事業

1,170万円

市民の健康寿命を延ばすため、運動機能チェックデータを基に健康スポーツ医による「運動処方」を作成し、運動教室で適切な運動習慣を身につけてもらう取組を行いました。

林梅が園線歩道補修工事

1,946 万円

通学路である林梅が園線(道明寺中学校前歩道)において、水路床版の経年劣化が進行していることから、歩道の安全性を確保するための改修工事を実施しました。

産婦人科・小児科オンライン相談事業

333万円

妊娠期や子育て期の不安解消のため、オンラインで気軽に小児科医、産婦人科医、助産師に相談できる相談体制を整えました。

物価高騰による学校給食費無償化

7,496 万円

物価高騰に伴い、苦しくなる市民生活の中で、特に食費や養育費などの支出負担が多い子育て世帯に対する支援として、学校給食費の無償化を実施しました。

キャッシュレス決済ポイント還元事業

1億5,771万円

物価高騰対策として、消費喚起による市内事業者支援と家計支援を行うため、市内店舗でのキャッシュレス決済に対してポイント還元を行いました。

市立保育所施設改修事業

9,358万円

子どもたちの安心・安全な保育環境を確保するため、第1保育所の外壁や建具、第6保育所の外壁・トイレを改修しました。

藤井寺市の財政のようす ～令和5年度決算の報告～

問合せ 行財政管理課 財政担当(5階③番窓口) ☎939・1014

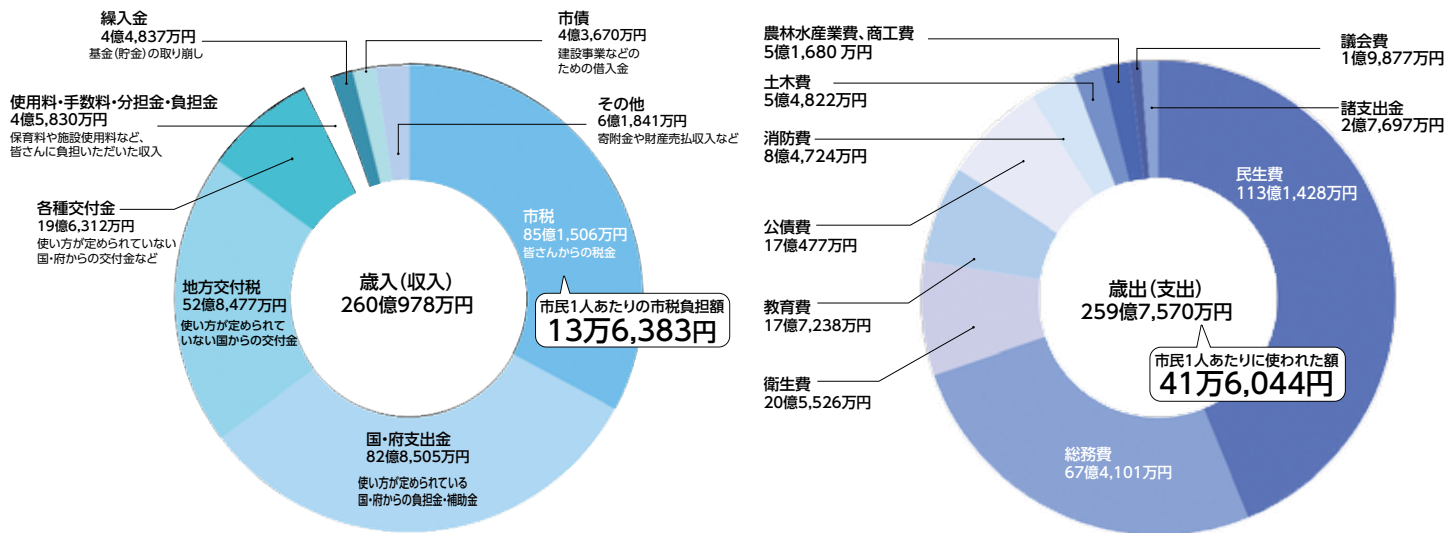


▲詳しくはこちら

決算報告(一般会計)

令和5年度一般会計決算は、財政調整基金(貯金)を3億8,000万円取り崩して、1,519万円の黒字となりました。

		令和5年度決算額	令和4年度決算額	対前年度増減額
歳入	入	260億 978万円	254億4,444万円	5億6,534万円
歳出	出	259億7,570万円	250億4,910万円	9億2,660万円
形式収支		3,408万円	3億9,534万円	－3億6,126万円
繰越財源		1,889万円	1,639万円	250万円
実質収支		1,519万円	3億7,895万円	－3億6,376万円



- ・市税は個人市民税などの減少により、前年度と比べ約7千万円減少しました。
- ・地方交付税は経済対策などの事業に必要な経費として追加交付があり、前年度と比べ約1億3千万円増加しました。
- ・寄附金はふるさと納税における返礼品の追加などにより、前年度と比べ約1億2千万円増加しました。
- ・市債は臨時財政対策債が減少したものの、投資的経費が増加したことから、前年度と比べ約8千万円増加しました。

- ・人件費は人事院勧告などに基づく給与水準の変動などにより前年度と比べ約2億円増加した一方、物件費は新型コロナウイルスワクチン接種事業の縮小などにより、前年度と比べ約2億9千万円減少しました。
- ・扶助費は前年度から約6億9千万円増加しており、そのうち経常的な扶助費である障害福祉サービス費は前年度から約2億1千万円増加し、扶助費全体としては依然として増加傾向にあります。
- ・投資的経費は市立保育所の改修や史跡買い上げ事業を実施したことから、前年度と比べ約1億3千万円増加しました。

財政状況

市債残高(借金)

161億7,901万円

(前年度比 ー12億648万円)

基金残高(貯金)

30億3,941万円

(前年度比 ー1,865万円)

うち財政調整基金 16億507万円

財政健全化等の指標名	令和5年度
実質赤字比率	－
連結実質赤字比率	－
実質公債費比率	3.2%
将来負担比率	43.0%
資金不足比率	
下水道事業	－
病院事業	0.5%

※表・グラフ内の数字はそれぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。

※市民1人あたりとは、令和6年3月31日現在の人口(62,435人)で割った金額です。

※この決算は12月議会で認定を受けようとするものです。

ふるさとまちづくり 応援寄附金

藤井寺市へたくさんご寄附をいただきありがとうございました。

令和4年度に寄せられた寄附金のうち 5,941万円(8,064件)は、令和5年度に以下のとおり使わせていただきました。

令和4年度 寄附された方が寄附金の使い道を8つの事業から選択			使い道の内訳(令和5年度)	
①子育て支援又は教育の推進に関する事業	3,002件	2,122万円	保育所・こども園・幼稚園・小学校・中学校の備品・図書購入	1,822万円
			母子保健推進事業	300万円
②福祉又は医療の充実に関する事業	714件	608万円	ふれあい支援事業	608万円
③観光又は産業の振興に関する事業	441件	329万円	シティプロモーション推進事業	329万円
			青少年育成推進事業	75万円
④スポーツの振興又は青少年の健全育成に関する事業	204件	143万円	市民総合体育館管理事業	68万円
			文化財用地管理事業	339万円
⑤歴史的又は文化的な遺産の保全に関する事業	405件	339万円	道路環境整備	198万円
⑥都市基盤の充実又は安全なまちづくりに関する事業	276件	198万円	ふるさとまちづくり応援寄附金事業	175万円
⑦まちの魅力をPRする事業	256件	175万円	市内水路修繕	1,051万円
			公園施設管理事業	547万円
			市営火葬場管理事業	264万円
			図書館資料充実事業	130万円
			道路環境整備推進事業	17万円
			文化財用地管理事業	17万円
⑧①から⑦以外で、市長が必要と認める事業	2,766件	2,027万円	観光振興事業	1万円

令和5年度 特別会計決算

会計名	歳入	歳出	歳入－歳出
国民健康保険	75億 515万円	69億2,751万円	5億7,764万円
後期高齢者医療	12億 901万円	11億6,108万円	4,793万円
介護保険	66億4,324万円	65億6,410万円	7,914万円

国民健康保険特別会計

国民健康保険料や大阪府からの交付金などを主な財源として、医療給付や保健事業などを行っています。

令和5年度末の被保険者数は12,049人で、前年度と比較して687人(5.4%)減少しました。保険給付費は45億3,050万円で、団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行や社会保険の加入要件の拡大による加入者数の減少の影響により、前年度から2億6,069万円減少しています。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度は、運営主体である大阪府後期高齢者医療広域連合と市で事務分担をしています。

市では後期高齢者医療保険料や市の負担金を主な財源とし、各種申請や届出の受け付け、保険料の徴収などを行っています。

黒字収支となっていますが、これは令和6年度に広域連合に納付する保険料などです。

令和5年度末被保険者は10,249人で、前年度と比較すると3.2%増加しています。

介護保険特別会計

市内の令和5年度末の後期高齢者は10,667人で、前年度と比較して350人増加しています。

市が支払った費用である保険給付費は、59億4,329万円となりました。前年度と比較すると、2億6,287万円(4.6%)増加しています。保険給付費の財源は、介護保険料が50%、公費(国・府・市)50%となっています。高齢者の皆様一人ひとりが健康の保持増進に努めることで、給付費の増額を抑えられ、保険料の負担が減り、なによりも皆様がいつまでもいきいきと暮らせることにつながります。



令和5年度 企業会計決算

病院事業

令和5年度の入院患者は4,710人、1日当たりの患者数は12.9人、病床利用率は13.1%でした。

また、外来患者数は29,090人で、1日当たり患者数は、99.3人でした。

昭和25年道明寺村国保直営病院として開院以来、長年にわたり地域に根差した医療を提供してまいりましたが、令和6年3月末日をもちまして閉院となりました。

公共下水道事業

令和5年度は令和4年度と比較して、下水道普及率は0.9%増加の85.2%、年間有収水量は35,809㎥減の4,778,937㎥でした。

建設改良事業では、引き続き下水道整備を行い、下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場の改築更新工事等に取り組みました。

今後も安心・安全な公共下水道の整備を行っていきます。

収益的収支 ※1		資本的収支 ※2	
収入	11億3,763万円	収入	6,340万円
支出	20億7,059万円	支出	1億2,038万円

収益的収支 ※1		資本的収支 ※2	
収入	20億4,357万円	収入	16億4,323万円
支出	19億2,040万円	支出	25億804万円

(※1)収益的収支…通常の経営活動に伴う収支で、サービス提供に対する料金などの収入と、施設を維持管理する費用や人件費、借入金の支払利息などの支出

(※2)資本的収支…施設や設備の整備などに伴う収支で、国からの借入金や負担金などの収入と、工事費や機器などの購入費、借入金の元金償還金などの支出